

# 自然学 SHIZENGAKU

来るべき美学のために For the Coming Aesthetics

成安造形大学と滋賀県立近代美術館は、連携推進事業として企画展「自然学 | SHIZENGAKU — 来るべき美学のために —」を開催いたします。成安造形大学がパートナーシップを締結しているロンドン大学ゴールドスミスカレッジの協力も得て、大学と美術館が深く協働した新たな文化創出の形を試行します。

今世紀の最も大きな課題は地球環境の問題です。自然は人間存在の基盤であり、生成の契機です。人間社会が自然の力を損なうようであれば、人類は存続できません。そのような価値観に貫かれた社会作りが国際的に急がれるのは、周知の事実です。この地球環境問題の時代において、「芸術」という枠組みが真にグローバルな平和的社会基盤として機能するためには、それにふさわしいテーマが必要ではないでしょうか。我々に提案できることは、「芸術」におけるテーマとして「自然」を語ることです。

本展は、成安造形大学とロンドン大学ゴールドスミスカレッジの国際学術交流プロジェクトが発端となっています。「自然学 | SHIZENGAKU」、それは東西の文化、すなわち欧米とアジアが共有すべきテーマであり、21世紀における自然認識や芸術と自然の関係を日英双方からの視点で掘り下げ、グローバルな時代の新たな「自然美学」の構築を目指すものです。日英双方で展覧会と国際シンポジウムを開催し、複数の芸術媒体と複数の批評的枠組み（理論／実践、日本／英国）によって立体的な探求を行います。このプロジェクトの成果から、日英の自然観を基盤としながらも、それぞれの美意識の主張にとどまらない提案の契機を生み出せればと考えています。

プロジェクトのコアメンバーは以下の6名です。  
岡田修二 [成安造形大学 絵画 プロジェクトリーダー]  
山本和人 [成安造形大学 宗教学・哲学]  
要真理子 [大阪大学・成安造形大学 美学・芸術学]  
ジョン・レヴァック・ドリヴァー [ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ音楽学部 フォノグラファー・サウンドアート]  
アンソニー・ブライアー [ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ音楽学部 美学]  
松本直美 [ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ音楽学部 音楽歴史学 プロジェクトコーディネーター]

本展(日本展)は、プロジェクト・コアメンバーのアーティスト2名によるコラボレーションを中核に、成安造形大学の教員や卒業生も参加して大規模な展覧会となります。調和と共存のための感性の獲得を目指して、鑑賞者・アーティスト・学者・学生が語り合っている活性化された場を形成したいと考えます。英国展と第2回国際シンポジウムは2013年3月にロンドン大学ゴールドスミスカレッジ他で開催される予定です。

\*このタイトルは、アリストテレスの同名理論書「自然学」、及びジル・ドゥルーズの論文「ルクレティウスと自然主義」、今西錦司の著書「自然学の提唱」などに由来しています。

| 第1回国際シンポジウム | \*要予約・参加無料

テーマ | 「芸術の基礎としての自然とクリエイティビティ」  
プロジェクト・コアメンバー6名によるレクチャーと討論  
通訳あり

日時 | 8月11日[土] 10:00—16:00(開場9:40)  
会場 | 滋賀県立近代美術館 講堂(定員150名)  
10:00— 岡田修二(挨拶とテーマ解説)  
10:10— ジョン・レヴァック・ドリヴァー  
10:50— 岡田修二  
11:20— アンソニー・ブライアー  
12:00— 昼休み  
13:00— 山本和人  
13:30— 松本直美  
14:00— 要真理子  
14:30— 休憩  
14:40— ディスカッション  
16:00 終了

\*シンポジウム終了後に企画展示室にて出品作家によるギャラリートーク 16:00—16:50

| 関連イベント |

レクチャー&コンサート \*要予約・参加無料

「悉皆成仏の世界 — 三井寺流声明と琵琶の演奏 —」

声明は、仏、菩薩、神々を賛美する歌曲として、僧侶によって詠われはじめ、後に、修業として重視され、声明成仏(悉皆成仏=自然と一体となり仏となる)の方便として盛んに行われるようになった。この旋律は日本音楽の原点となり、今様、平家琵琶、謡曲、浄瑠璃、小唄、浪花節、演歌などに広く影響を与えていることは知られている。日本において「自然学」を考えると、この音色を抜いて語ることはできない。

日時 | 8月12日[日] 13:00—14:30(開場12:30)  
会場 | 滋賀県立近代美術館 講堂(定員150名)  
進行 | 岡田修二・加藤賢治 [成安造形大学附属近江学研究所 研究員]  
協力 | 総本山三井寺  
第1部 | 「悉皆成仏の世界 — 天台声明と平家琵琶 —」 | ゲストによる基調講演  
[ゲスト] 木村至宏 [成安造形大学附属近江学研究所 所長]  
第2部 | 琵琶の解説と実演  
[解説] 小谷昌代 [四ノ宮琵琶ひろめびと]  
第3部 | 三井寺流声明の解説と公演  
[解説] 福家俊彦 [総本山三井寺執事長]

トーク 進行 | 岡田修二 \*要予約・参加無料

日時 | 9月8日[土] 14:00—15:40  
会場 | 第1部 講堂(定員150名)、第2部 企画展示室内(定員なし)  
第1部 | 「西洋美術における自然の表現」 | ゲストによるレクチャー  
14:00—14:50(開場13:30)  
[ゲスト] 千速敏男 [成安造形大学教授 西洋美術史]  
第2部 | 千速敏男・要真理子・真下武久によるギャラリートーク  
15:00—15:40(企画展示室入口に集合・要観覧券)

日時 | 9月15日[土] 13:00—16:00  
会場 | 第1部 企画展示室内(定員なし)、第2部 講堂(定員150名)  
第1部 | 出品作家・ゲストによるギャラリートーク  
石川 亮、宇野君平、岡田修二、西久松吉雄  
13:00—14:00(企画展示室入口に集合・要観覧券)  
第2部 | 「日本人と自然美学 南方熊楠と曼茶羅より」 | ゲストによるレクチャー&出品作家とのディスカッション  
14:10—16:00(開場13:40)  
[ゲスト] 稲賀繁美 [国際日本文化研究センター教授 比較文化・比較交渉史]

日時 | 9月23日[日] 11:00—16:00  
会場 | 第1部 企画展示室内(定員なし)、第2部 講堂(定員150名)  
第1部 | 出品作家・ゲストによるギャラリートーク  
木藤純子、Softpad、馬場晋作、真下武久  
11:00—12:00(企画展示室入口に集合・要観覧券)  
第2部 | 「自然・アート・知覚」 | ゲストによるレクチャー&出品作家とのディスカッション  
13:00—16:00(開場12:30)  
[ゲスト] 廣瀬浩司 [筑波大学准教授 哲学]、松嶋 健 [京都大学人文科学研究所研究員 人類学]、三脇康生 [仁愛大学大学院教授 精神医学・美術批評]

国際シンポジウム、レクチャー&コンサート、トークのお申込方法

イベント名・日時・氏名・住所・電話番号を明記のうえ、メール(shizengaku@seian.ac.jp)またはFAX(077-574-2120)にて成安造形大学【キャンパスが美術館】事務局までお申込みください。なお、定員が決まっているものに関しては先着順とし、定員になり次第締め切らせていただきます。

| **出品作家** |

**石川 亮** **Ryo Ishikawa**

—  
http://ryoishikawa.jp/

—  
1971 大阪府生まれ  
1995 京都精華大学美術学部造形学科 卒業  
現在 成安造形大学非常勤講師 兼 附属近江学研究所研究員

交通インフラやそのシステムの興味から作品制作を始める。ここ数年は国内の神仏にゆかりのある地に出向き、その場所の持つ性質やルーツを探ることが作品制作になっている。代表作に〈全体駅〉〈どこ社〉。近作である地域伝承や地名をもとに名付けられた湧水を収集した作品〈全体-水〉は個々の水が混ざりあい一つになるプロセスを作品にしている。また山の稜線を際立たせる〈望む〉〈仰ぐ〉シリーズ、《日出山日入山》は固有の形に視線を向けていく作品である。宗教観と自然観を生活の中に取り込み、自然と対峙しながらも共存してきた日本人の感覚に注目している。

**宇野君平** **Kumpei Uno**

—  
1974 愛知県生まれ  
1998 成安造形大学造形学部造形美術科立体造形クラス 卒業  
2001 筑波大学大学院芸術研究科デザイン専攻総合造形コース修士課程 修了  
現在 成安造形大学講師

「鉄」との出会いから、彫刻家として制作を展開してきた。近年は、彫刻の素材としての「鉄」から、時代を読み解く手がかりとしての「鉄」へと移行しながら、「鉄を通して見えてくるもの」をキーワードに美術家として活動している。「日常の鉄」、「戦争の鉄」、「身体の鉄」、「自然の鉄」など、様々な「鉄」との関係性から表現を模索している。

**木藤純子** **Junko Kido**

—  
1976 富山県生まれ  
1999 成安造形大学造形学部造形美術科洋画クラス 卒業  
2000 成安造形大学造形学部造形美術科洋画クラス研究生 修了

—  
身体を通した空間との対話を繰り返しながら、その場所性を読み解いていくというプロセスのもと構想されたインスタレーション作品を発表。「その場所でしか成立しない作品」として、時の移ろいや、場所の持つ固有の力を借りながら、鑑賞者と場とのランダムな出会いを創出することで、その場に居合わせた鑑賞者の知覚を通じて個人的な体験として、深く感性に呼びかける表現を目指している。

| **自然学プロジェクト・コアメンバー** |

**岡田修二** **Shuji Okada** [プロジェクトリーダー・出品作家]

—  
http://shuji-okada.com/

—  
1959 香川県高松市生まれ  
1987 愛知県立芸術大学大学院美術研究科絵画油画専攻 修了  
2007 京都市立芸術大学大学院美術研究科博士(後期)課程油画領域 修了  
現在 成安造形大学教授

—  
このグローバルな地球環境の時代における今日の自然美学の実践として、日本文化の精神性の特質を新たなかたちで表現することに取り組んでいる。〈水辺〉シリーズは、琵琶湖湖畔のフィールドワークを起点として、水辺の情景をマクロレンズによる描写で映像的なヴァイジョンとして読み込み、油彩画の古典技法を発展させた方法により定着させたものである。

**山本和人** **Kazuto Yamamoto**

—  
成安造形大学准教授(宗教学, 哲学)。1960年生まれ。京都大学大学院文学研究科博士課程後期満期退学。主要論文「知覚に於る経験と抽象―ホワイトヘッドの知覚論の意味」「千年王国運動と歴史―バリッジとエリアーデの研究を中心に―」「現代に於る〈宗教〉の変容」「メディアの中の妖精―コティングリ妖精事件を読む」。

**要真理子** **Mariko Kaname**

—  
大阪大学招へい准教授, 成安造形大学非常勤講師(美学・芸術学)。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程芸術学専攻修了。博士(文学)。専門は美学・芸術学, 美術批評。主な著作に「ロジャー・フライの批評理論―知性と感受性の間で」(東信堂, 2005年), 共編著に「イメージ(上) イメージとは何か」(ナカニシヤ出版, 2011年), 「イメージ(下), イメージと私たち」(ナカニシヤ出版, 2012年)など。

**ジョン・レヴァック・ドリヴァー** **John Levack Drever** [出品作家]

—  
スコットランド出身。バンゴー大学卒業, イーストアングリア大学修士, ダーティントン芸術大学博士課程修了。現在ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ音楽学部上級講師, 同大学サウンド・ブラクティス研究所所長。英連邦・アイルランドサウンドスケープ協会評議員, 港市立大学客員教授(2007年)。王立地理学会, 王立芸術協会会員。

| **関連イベントゲスト** |

**木村至宏** **Yoshihiro Kimura**

—  
成安造形大学附属近江学研究所所長, 同大学名誉教授。1935年滋賀県生まれ。大谷大学大学院文学研究科中退。日本文化史専攻。天津市史編纂室室長を経て, 天津市歴史博物館初代館長。1996年成安造形大学教授, 2000年同大学学長に就任。2008年成安造形大学附属近江学研究所初代所長を併任。

**小谷昌代** **Masayo Kotani**

—  
四ノ宮琵琶ひろめびと。1970年京都府生まれ。京都府神社庁楽琵琶奏者・進藤秀保氏や平家琵琶奏者・荒尾努氏に師事しながら平安初期に存在した楽琵琶の独奏法を研究。2008年から、四ノ宮地藏徳林庵「弦楽奉納演奏会」や清水焼団地「陶器まつり」のステージイベントなどをプロデュースし、琵琶の演奏を行う。イベントを通じて盲目の親王であり琵琶法師の祖と慕われた人康親王ゆかりの四ノ宮琵琶の普及に務める。現在、藤森神社鳴鳳雅楽会会員。

**福家俊彦** **Toshihiko Fuke**

—  
総本山三井寺執事長, 天台寺門宗教学部長。1959年滋賀県生まれ。立命館大学大学院文学研究科修士課程修了。西洋哲学専攻。三井寺の歴史を中心に仏教文化史, 建築生産史を研究。おもな著書は, 史料集『園城寺文書』全七巻(共著・講談社), 「いのちの食味―三井寺のおそうざい精進料理」(共著・戎光祥出版)他多数。

**千速敏男** **Toshio Chihaya**

—  
成安造形大学教授(西洋美術史)。成城大学大学院文学研究科博士課程後期満期退学。美術理論史を研究。主要論文:「Über die Bedeutung des Wortes, 'schilderachtich', in der niederländischen Kunstliteratur des 17. Jahrhunderts」『AESTHETICS』第6号(1994年), 「ウィレム・フーレーの"teyckenachtigh"について」『伝統と象徴:美術史のマトリックス』(沖積舎, 2003年), 「レンブラントの〈夜警〉はピクチャレスクか:サミュエル・ファン・ホーフストラーテンの"schilderachtich van gedachten"をめぐって」『美學美術史論集』第19輯(2011年)。

**稲賀繁美** **Shigemi Inaga**

—  
国際日本文化研究センター教授(比較文化・比較交渉史)。1957年生まれ, 東京大学教養学部教養学科卒。同大学院比較文学比較文化専攻単位取得退学。バウ第7次学博士。三重大学助教授を

7 西久松吉雄（石の塔）2008 180×321cm 300号、第35回前衛展出品（東京都美術館）

8 馬場喜作（京都芸術大学大学院美術研究科博士(後期)課程「展-イン-ション-ビー」）2011 @KCUA (京都)

9 真下武久 (Moony) 2004 共同制作: Akio Kamisato, Satoshi Shibata

Child - Grandmother Cherry Blossom）2011 photo. 新茂大 | 東京芸現(代美術館蔵画)

シリヴァー | ポートレート

de）2008 photo. Softpad | dual points屋, 京都芸術センター（京都）

「鉄」との出会いから、彫刻家として制作を展開してきた。近年は、彫刻の素材としての「鉄」から、時代を読み解く手がかりとしての「鉄」へと移行しながら、「鉄を通して見えてくるもの」をキーワードに美術家として活動している。「日常の鉄」、「戦争の鉄」、「身体の鉄」、「自然の鉄」など、様々な「鉄」との関係性から表現を模索している。

## 来歴

## 木藤純子 Junko Kido

- 1976　富山県生まれ
- 1999　成安造形大学造形学部造形美術科洋画クラス 卒業
- 2000　成安造形大学造形学部造形美術科洋画クラス研究生 修了

身体を通した空間との対話を繰り返しながら、その場所性を読み解いていくというプロセスのもと構想されたインスタレーション作品を発表。「その場所でしか成立しない作品」として、時の移ろいや、場所の持つ固有の力を借りながら、鑑賞者と場とのランダムな出会いを創出することで、その場に居合わせた鑑賞者の知覚を通じた個人的な体験として、深く感性に呼びかける表現を目指している。

## 外部リンク

## Softpad

http://www.softpad.org/

- 1999　結成

京都を中心に活動するアート／デザインユニット。現在のクリエイション・メンバーは粟津一郎, 上芝智裕, 奥村輝康, 竹内 創, 外山 央, 泊 博雅, 南 琢也。インスタレーション, パフォーマンス, サウンド, デザイン分野などジャンルを超えながらそれぞれのメディアの境界線と接点を探る表現活動を行う。

## 外部リンク

## 西久松吉雄 Yoshio Nishihisamatsu

- 1952　京都府生まれ
- 1976　京都市立芸術大学美術学部日本画科 卒業
- 1979　京都市立芸術大学美術専攻科日本画専攻 修了
- 現在　創画会会員・成安造形大学教授

日本の歴史に思いを馳せて、日本の文化と風土を意識しながら精神性を更に深めた作品を描き続けている。古墳や社のある風景から巨樹や奇岩群、そして土や地層へと作画対象が展開してきた過程で、樹・石・森・水・滝・風・雲など自然が内包する気を表現したいとも考えている。それらを《古の贈り物》シリーズとして発表している。

## 外部リンク

## 馬場晋作 Shinsaku Baba

- 1978　京都府生まれ
- 2001　成安造形大学造形学部造形美術科洋画クラス 卒業
- 2011　京都市立芸術大学大学院美術研究科博士(後期) 課程 修了
- 現在　成安造形大学非常勤講師

絵画の方法論を解体し、再構成するプロセスによって作品を展開する。主題の一つに視覚と制度の関係の巡ることがある。近年は鏡に現れる曖昧なイメージに惹かれ、透明な素材を用いて表出を試みている。鏡像には対象にはない余剰があり、それらは多層的なズレを孕んでいる。余剰の一側面である鏡の輝きには、文化的特殊性が見いだせる。私は、絡まり、解け、曖昧にしかし密接に係わり合う鏡像と対象のような相関性に主題を結び、我々の視覚経験や、それに伴い変化する環境との距離のあり方について考えを馳せている。

## 真下武久 Takehisa Mashimo

- 1979　東京都生まれ
- 2003　成安造形大学造形学部デザイン科映像クラスCGコース 卒業
- 2005　岐阜県立情報科学芸術大学院大学メディア表現研究科 修了
- 現在　成安造形大学講師

インタラクティブアートを中心に研究、作品制作を行う。神里亜樹雄・柴田知司との共同作品《Moony》(2004年)や、SZによる脳波を用いた作品《virtual/actual》(2007年)などの作品を制作。光州ビエンナーレ(2006年)、深圳水墨ビエンナーレ(2008年)、サンダンス国際映画祭(2011年)他、多くの国際展で発表を行う。

## 要真理子 Mariko Kaname

大阪大学招へい准教授,成安造形大学非常勤講師(美学・芸術学)。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程芸術学専攻修了。博士(文学)。専門は美学・芸術学,美術批評。主な著作に『ロジャー・フライの批評理論―知性と感受性の間で』(東信堂,2005年)、共編著に『イメージ(上) イメージとは何か』(ナカニシヤ出版,2011年),『イメージ(下),イメージと私たち』(ナカニシヤ出版,2012年)など。

## ジョン・レヴァック・ドリヴァー John Levack Drever

スコットランド出身。バンゴー大学卒業,イーストアングリア大学修士,ダーティントン芸術大学博士課程修了。現在ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ音楽学部上級講師,同大学サウンド・ブラクティス研究所所長。英連邦・アイルランドサウンドスケープ協会評議員,香港市立大学客員教授(2007年)。王立地理学会,王立芸術協会会員。

私のサウンドスケープ作品は、岡田修二氏の制作中のキャンパス及び琵琶湖周辺の環境から受けた印象から生まれた。両者から受けた影響はサウンドスケープ作品においてテクスチャー、場面設定、その移ろいとなって表現されている。一日のうちに時間の移り変わりによって違った様相をみせる琵琶湖周辺で取材した様々な音と、日本の伝統楽器である琵琶にクローズアップして採取した音とをブレンド、加工することによって構成されている。

## アンソニー・プライアー Anthony Pryer

美学・音楽学者。ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ卒業,キングスカレッジ修士課程修了,同大学博士課程単位取得退学。中世史研究者として発表した修士論文でHilda Margaret Watts賞受賞。キングスカレッジ,王立音楽院講師を経て現在ゴールドスミスカレッジ音楽学部修士課程歴史的音楽学科ディレクター。美学者としてのほか、モンテヴェルディ,モーツァルトの研究者としても名高い。BBC Classical Music Awards審査員,the Accademia Monteverdiana評議員,the British Society of Aesthetics(英国美学学会)理事(2001―2007年)。

## 松本直美 Naomi Matsumoto

音楽歴史学者。愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業。1997年トリニティ音楽大学大学院声楽専攻修了。1999年ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ大学院修士課程音楽学専攻を首席修了。2005年同大学より博士号授与。特に17世紀・19世紀イタリアオペラの分野で研究活動を展開し,British Federation of Women Graduate National Award, Gladys Krieble Delmas Foundation British and Common Wealth Awardなどを受賞。共著にBeyond Notes: Improvisation in Western Music of the 18th and 19th Centuries (Brepols出版,2012年)など。現在、ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ音楽学部アソシエイト講師,Society for Seventeenth Century Music (USA),日本音楽学会会員。



## 千速敏男 Toshio Chihaya

成安造形大学教授(西洋美術史)。成城大学大学院文学研究科博士課程後期満期退学。美術理論史を研究。主要論文:『Über die Bedeutung des Wortes, "schilderachtich", in der niederländischen Kunstliteratur des 17. Jahrhunderts』[AESTHETICS]第6号(1994年),『ウィレム・フーレーの“teyckenachtigh”について』[伝統と象徴:美術史のマトリックス](沖積舎,2003年),『レンブラントの〈夜警〉はピクチャレスクか:サミュエル・ファン・ホーフストラテンの“schilderachtich van gedachten”をめぐる』[美術美術史論集]第19輯(2011年)。

## 外部リンク

## 稲賀繁美 Shigemi Inaga

国際日本文化研究センター教授(比較文化・比較交渉史)。1957年生まれ,東京大学教養学部教養学科卒。同大学院比較文学比較文化専攻単位取得退学,バリ第7大学博士。三重大学助教を経て現職。異文化接触の気象学,文化変動の地形学。著書に『絵画の黄昏』[絵画の東方],編著に『伝統工藝再考:京のうちそと』[東洋意識]ほか。

## 外部リンク

## 廣瀬浩司 Koji Hirose

筑波大学人文社会系准教授(哲学)。1963年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程中途退学。バリ第一大学博士(哲学)。専門はメルロ＝ポンティを中心にした,フランス思想・現象学。おもな著書に『デリダーきたるべき痕跡の記憶』(白水社),『後期フーコー』(青土社),訳書にジャック・デリダ[死を与える](共訳,ちくま学芸文庫),ミシェル・フーコー『主体の解釈学』(共訳,筑摩書房)などがある。

## 外部リンク

## 三脇康生 Yasuo Miwaki

仁愛大学大学院教授(精神医学・美術批評),精神科医。京都大学文学部美学美術史卒業後,同大学医学部卒。京都大学医学研究科博士課程卒(医学博士)。90年代終わり,フランス政府給費留学生としてバリ第一大学では,精神医学と現代思想や生命論,自然論を研究した。美術批評家としては医学部在学中から活動している。

## 外部リンク

## 松嶋 健 Takeshi Matsushima

京都大学人文科学研究所研究員(人類学)。文化人類学者。近年は精神科病院を全廃したイタリアの地域精神保健について研究している。病いの経験を、より広く「生きる」という文脈から捉え直すことで、精神環境・社会環境・自然環境のすべてにわたるエコロジーの問題として探究をすすめている。イタリアでは精神障害を持った人々と共に演劇ラボラトリーを行っていたが、このことと関連して、特にアートについてはその生態学的な身体的行為の次元に関心を抱いている。

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

石川亮  
Ryo Ishikawa

宇野君平  
Kumpei Uno

岡田修二  
Shuji Okada

木藤純子  
Junko Kido

ジョン・レヴァック・ドリヴァー  
John Levack Drever

Softpad  
Softpad

西久松吉雄  
Yoshio Nishihisamatsu

馬場晋作  
Shinsaku Baba

真下武久  
Takehisa Mashimo

【特別展示】

出品作家の木藤純子によるインスタレーション展示 \*観覧無料

会期 | 8月16日[木]—19日[日] 9:30—17:00 (入館は16:30まで)  
会場 | 滋賀県立近代美術館 ギャラリー

【たいけんびじゅつかん】

「キッズ ミーツ アーティスト!」出品作家の宇野君平によるワークショップ

「琵琶湖の微生物をモチーフに、アートしてみよう」

多様な自然に触れる感動は、美術も科学も同じです。また、このような人類の好奇心は、あらゆる学問の原点です。プランクトンの解説に滋賀県立琵琶湖博物館の楠岡 泰博士をお迎えして、実際に顕微鏡で覗きながら、造形作品を制作します。このワークショップは、アートとサイエンスのコラボレーションです。

日時 | 9月22日[土] 13:00—16:30  
会場 | 滋賀県立近代美術館 ワークショップルーム  
対象 | 小中学校全学年とその保護者  
申込締切 | 9月10日[月] 必着  
解説 | 滋賀県立琵琶湖博物館学芸員 楠岡 泰博士  
協力 | 滋賀県立琵琶湖博物館  
\*詳しくは、滋賀県立近代美術館のホームページ・ブログをご覧ください(申込等のお問い合わせは当館まで)

主催 | 成安造形大学, 滋賀県立近代美術館  
協力 | ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ, 株式会社ナルディック  
協賛 | 大和日英基金

成安造形大学

Goldsmiths  
UNIVERSITY OF LONDON

株式会社ナルディック

大和日英基金  
DAIWA  
ANGLO-JAPANESE  
FOUNDATION

【同時開催】

成安造形大学の在学生・卒業生によるグループ展

「自然学 雷 | SHIZENGAKU TSUBOMI — 来るべき美学のために—」

会期 | 2012年9月5日[水]—9月23日[日]  
時間 | 12:00—18:00 会期中無休・入場無料  
会場 | 成安造形大学【キャンパスが美術館】

お問い合わせ | 成安造形大学【キャンパスが美術館】事務局  
〒520-0248 滋賀県大津市仰木の里東 4-3-1  
Tel. 077-574-2111(代表) Mail. artcenter@seian.ac.jp  
http://www.seian.ac.jp/

\*JR湖西線おごと温泉駅下車, スクールバスで約3分



JR琵琶湖線(東海道本線)「瀬田駅」からバス「滋賀医大」行きにて「文化ゾーン前」下車、徒歩約5分 \*バスは約10—15分間隔で運行  
車は名神・新名神高速「草津田上インター」から約5分 \*なるべく公共交通機関をご利用ください

2012年8月11日[土]—9月23日[日]

時間 | 9時30分—17時(入館は16時30分まで)  
休館 | 月曜日(ただし、9月17日[月]は開館, 翌18日[火]は休館)  
観覧料 | 一般850円(650円)・高大生600円(400円)・小中生400円(300円)  
( )内は前売および20名以上の団体料金

THE MUSEUM OF MODERN ART, SHIGA  
滋賀県立近代美術館

THE MUSEUM OF MODERN ART, SHIGA  
滋賀県立近代美術館  
〒520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱町 1740-1  
Tel. 077-543-2111 http://www.shiga-kinbi.jp/